高崎市に版画など342点贈る

「のらくろ」作者・田河水泡さんの遺族

手塚さんらの色紙60枚も　29日から一般公開

人気漫画「のらくろ」の作者で、一九八九年に九十歳で亡くなった田河水泡さんの遺族から、田河さんのエッチングなど三百四十二点が高崎市に寄贈された。田河さんと親交のあった高崎洞窟観音・山岳記念館の荒井俊幸理事長（85）が夫人に依頼、まんが専門の記念館を運営する荒井理事長の熱意にこたえる形で遺族が貴重な資料を提供した。日本を代表する漫画家らが「のらくろ」を描いた色紙六十枚も含まれており、荒井さんは「非常に貴重な資料。高崎の宝になる」と話している。

色紙は、一九八〇年に東、河水泡夫妻を招く会に、章郎、ちばてつや、永井豪、藤子不二雄さんが自ら「のらくろ」を描いて、大先輩の田河夫妻に贈った。田河さんの遺品は これまでに出身地の東京江東区や家族の住む町田市に寄贈されており、高崎は第三の“ゆかりの地”になる。

田河さんは一九三一年に雑誌で掲載した「のらくろ二等卒」で人気漫画家になり、以後、「のらくろ」等卒「のらくろ上等兵」などのらくろシリーズを書き続けた。田河さんの門弟漫画家には、サザエさんの作者、長谷川町子さんや、「カッタ」親父」を描いた南田中じゅうたんらがいる。

日本を代表する漫画家の描いた色紙を手に「高崎市の宝物になる」と語る荒井さん

高崎市は七月二十九日から八月九日にかけて、収集した作品の一部を高崎シティギャラリーで開く「高崎百年展」で一般公開する。

「ぼくののらくろ展」のコーナーで、色紙六十枚、漫画本約二十点、エッチング作品約十点を展示、田河ワールドの一端に触れることができる。

同年展では関口コさんが描いた「高崎かるた」の原画を紹介するほか、高崎の百年の歴史を写真でたどる高崎回顧写真展、群馬

人気呼ぶ里神楽

半年で15回公演　施設の出演依頼相次ぐ

市市民総地区住民が中神楽愛好会（大田晃三代表）によって組織した「宝泉表、会員六人）の里神楽が、人気を呼び、施設や老人ホームから出張依頼が相次いでいる。独特のアレンジや郷愁を誘う笛の音がお年寄りにうけているとみられる。新年度から宝泉地区行政センターの講座に加わった。六十二歳の太田さんは「最近は里神楽を演じられる人が少なくなった。昔を思い出して涙ぐむお年寄りを見ると、やりがいがあると話し、今後の活動に意欲を燃やしている。

神楽は神社を祭るため奉納される舞いや踊り。多くの系統があるが、一般的なものは五穀豊穣（ほうじょう）を願う里神楽が行われている。舞いの種目に道化役回りのものが含まれ、舞人が時々せりふを発する。

もともと八節の笛を担当していた太田さんが「神楽に挑戦したい」と思ったのが最結成のきっかけ。伝統的な神楽を復活させるため会員が募り、昨年の暮れから本格的な活動をスタートさせた。

会員は週一回、夜の七時から二時間ほど同行政センターで練習している。ひょっとこ踊りを担当する一人、さまざまな神楽を研究する一方、昔の農作業の形態を表現するため知恵を絞っている。カラフルな衣装やお面は自前。太田さんの面に合わせて踊りのけいこに汗を流している。

活動が市の広報に紹介されたところ、老人ホームや施設から出演の依頼が多くなり、自主的な敷居と合わせ半年間で十五回公演した。また、同センターの講座には男女十四人が参加しており、新たに継承する輪が広がっている。「少しでも社会に役立つことを願って頑張っています」と話す会員の表情は明るい。

練習に張り切る宝泉神楽愛好会（宝泉地区行政センターで）

人で悩まないで

ALS県支部　総会15日に　患者ら参加呼びかけ

ALSは運動神経が機能を失い、手足の麻ひからやがて飲食や呼吸ができなくなる難病。思考に影響はなく、この病気の宇宙物理学者、ホーキング博士のように創造的に神的、肉体的負担に悩む患者や家族が多い。県内には六人から七人の患者がいるとみられている。

協会県支部は全国二番目の支部として昨年七月に患者三十人を含む百五十人で発足。遺族が経験を踏まえ患者や家族にさまざまなアドバイスをしたり、医療情報の収集、提供などをしてきた。

中山英雄事務局長は「会員同士の連絡が密になり、会員が外に対しても オープンになった」と成果を語る。本年度は移動の苦労を少なくし、会員同士がさらに密に交流できるよう、ブロック別の交流会に力を入れる方針だ。

総会は前橋市新町橋町の県社会福祉総合センターで午後一時から。群馬大医学部保健学科の牛込三和子教授が「ALSとともに生きる人々へ―支える立場からの提言」をテーマに講演する。問い合わせは中山事務局長（☎027・2552・0502）へ。

県支部への入会を呼びかける中山事務局長

県支部への入会を呼びかける中山事務局長

深津、大沢氏を温泉功労者に彰

環境庁

環境庁は十日、東京都千代田区の同庁で、温泉の保護、適性利用で功績のあった、本県から深津禮二郎（ご）=前橋市上佐野町=と大沢雄一郎（ご）=同市前橋市関根町の両氏がそれぞれ普及啓発功労者、学術研究功労者として表彰を受けた。

同表彰は温泉の普及啓発や学術研究、温泉行政の各部門で長年活動した個人、団体が対象で、今年は八人が表彰された。本県関係では一九八七年の木暮金太夫県温泉協会会長、九七年の県温泉協会以来となる。

若葉建設を指名停止

館林市

中堀栄二元建設相の受託収賄事件を受け、館林市は十日、贈賄側の若葉建設（東京都目黒区）を、同日から九月九日までの二カ月間、指名停止処分にした。

おいらん地蔵

ふるさとの民話 ▶197

高崎市

柏川哲彦さん

高崎市貝塚町の長泉寺門前では、おいらん地蔵と呼ばれる一体の地蔵が、参拝者を出迎えている。江戸時代に近くの農民が建てたという この地蔵には、悲運な死を遂げた姫の話が語り継がれている。同寺の柏川哲彦住職にうかがった。

江戸時代の中ごろ、常高寺の門前に武士が住んでいた。ある日、この武士の一人娘が、農作業をしていた夫婦の前に現れた。娘は家来に「領地から逃げて来た二人を殺害するように」と命じた。

高崎まで逃げて来た二人は追手に気付き、現在の高崎市内の寺に逃げ込み難を逃れたという。

柏川住職は「今では言い伝えを知る人はなくなっている。地蔵は人々の苦しみを取り去り、楽しみを与える力を持つ存在で、悩みを抱える多くの人に拝んでもらいたい」と話している。

●悲運な姫の死弔う

長泉寺の門前に建つおいらん地蔵（中央）

平和な日々を過ごしていた農民たちは大きな衝撃を受け、首のない女性の遺体を探して丁重に埋葬、弔うための地蔵を建てた。女性がさぞかやがて幸物を着ていたことから、農民は「おいらんが逃げてきたのだろう」と思い込み、おいらん地蔵と呼ぶようになったという。

この観音がある八月一日を地蔵盆と、数年年前まで夏祭りも子供の相撲大会が開かれていた。

後守は、家督を継ぐ嫡男は、姫に近づくことを許さない大名は幕府に領地を没収されるため、牧野家は女子を男子と偽って幕府に届け出て育てることにした。

当時、幕府の将軍には五十四人の子供がおり、やがて牧家にも嫡男誕生と呼ばれる一体の地蔵が、本当は姫であることがばれてしまう。

【メモ】長泉寺は一五九六年、勝山全最大和尚によって、現在の高崎市飯盛町に建てられた。曹洞宗で本山は福井県永平寺。住職によると、建立当時は全国的に武士が好んで禅の教えを学び、農村に住む庶民にも広まり始めた。

追いつめられた牧野家は、姫を殺害する者を募った。男子は、姫と同じ年頃の若侍の二人を集めて、野家は女子を男子と偽ってよう命じた。幕府には、姫は急病で死んだ」と告げ、牧野家はその後に生まれた男子が家督を継ぐことになった。

身分を越えて愛し合っていた二人は喜んで城を出たが、重臣たちは一抹の不安を抱えていた。姫と若侍が生きていれば、秘密が漏れるかもしれない」。重臣たちは家来に「領地から遠く離れた地で二人を殺害するように」と命じた。

高崎まで逃げて来た二人は追手に気付き、現在の高崎市内の寺に逃げ込み難を逃れたという。

農作業をしていた夫婦は、刀を持った男が若い女性を追いかけて走り、しばらくすると男が手にしみを抱える力を持って戻ってくるのを見た。夫婦は家人に拝んでもらいたい」と話している。

田代新警務部長が着任

「やりがい感じてる」

田代裕昭氏

県警の新しい警務部長に内閣官房内閣情報調査室の田代裕昭氏（八）が着任。「久しぶりの第一線なので、やりがいを感じている」と抱負を語った。

田代警務部長は東京都出身。一九八四年に東大法学部卒業、「ほかの省庁に比べて、警庁の若い職員が最もいきいきと仕事をしていたことに親近感を覚えた」と入庁した。

同庁長官官房国際部の総括補佐、チャイルドポルノ担当捜査官を経て、警察庁に入った。

進藤の中でも、日本の治安が比較的良好なことを感じた時、上司の国際部長がICPO（国際刑事警察機構）に出向していたことから海外に出張した。国内の治安は悪化しつつあるが、「先安は悪化しつつあるが、「先進国の中でも、日本の治安が比較的良好なことを感じた」という。

前任の内閣情報調査室で、台を動員し、各署でチャイルドポルノ事件捜査会、交通故防止、チャイルドシートとシートベルトの着用徹底が重点。街頭パレードや育所巡回を通じて、県民に正しい交通マナーの実践を呼びかけていく。

運動は高齢者や若者の交通故防止、チャイルドシート着用調査会、交通少年団による のぼり旗の掲示、高齢者交通安全大会の開催などの行事を展開していく予定。

県警交通企画課は「運動を通じて、重点項目を徹底していきたい」として、一万千人と重岡三百十三人の体制で夏の交通安全運動・レディーの実践を呼びかけていく。県警や関係団体から、約一万千人と重岡三百十三人が参加する。

夏の「県民交通安全運動」スタート

16日まで

「あなたが主役ク交通安全」をスローガンに、夏の県民交通安全運動・レディーの交通安全週間が十日から始まった。十六日まで。

BSデジタル実験放送は、より美しくリアルな送受信が公開される。BSデジタルハイビジョンの画質、高音質、便利なデータ放送を体験することができる。二十三日まで。

BSデジタルハイビジョンは、「高精細」「ワイド」「ニュース」を開催地・神戸、美しい自然、伝統芸能をBSデジタルハイビジョンで実験放送する。

実験放送受信の公開、データ放送の疑似体験ほか、家電メーカー各社のデジタル対応型テレビを展示。ハイビジョン「四大文明」の視聴コーナーも設ける。

入場無料。開場は十前九時半から午後六時。問い合わせは、NHK前橋放送局（☎027・251・1711）へ。

「ぼくのらくろ」展

作品約十点、一般公開

「ぼくのらくろ」展の作品約十点が、一般公開される。

「ぼくのらくろ」展

作品約十点、一般公開

「ぼくのらくろ」展

作品約十点、一般公開

点検整備はクルマの愛情チェック　点検で　守ろう　クルマと青い空

あなたのクルマだいじょうぶ…？ Vol.2

くるまやさんからのメッセージ②

・ウォッシャー液のチェック
・ワイパーのチェック
・タイヤの溝のチェック
・エアコンのチェック

※ご相談はお近くの認証看板のある整備工場へ!!

安心・快適チェック

7月は安心・快適チェック月間

・シーズンインチェック
・ロングドライブチェック
・セーフティーチェック
のメニューを取り揃えてお待ちしています。

小さなことが大きなことに。

クルマの点検整備は、ドライバー自身の自己管理責任です。

welcome to oasis
お近くの自動車整備工場は、まちとクルマのオアシスです。

プロの整備事業場は黄色い看板が目印

関東運輸局長認証
普通小型 自動車分解整備事業
普通自動車（大型）　小型三輪自動車
普通自動車（中型）　小型二輪自動車
普通自動車（小型）　軽自動車
普通自動車（乗用）　大型特殊自動車
小型自動車

安心・快適なカーライフのご相談はプロの整備士のいるお近くの整備工場へ

ある雨の日のドライブで・・・①

⚠ワイパーがきかない!!②

⚠ウォッシャー液が出ない!!

⚠タイヤの溝がない!!③

社団法人 群馬県自動車整備振興会　〒371-0007 前橋市上泉町397-1 TEL.027-261-0221

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。